



令和7年2月1日(土)、茨城県教育研修センターにて、NITS・茨城県教育研修センターコラボ研修「教師の魅力について考えるセミナー～ウェルビーイングな学校創りと先生の働き方～」を開催しました。参加型142人、オンライン型100人の方々にご参加いただきました。

### 【第1部】

#### 【基調提案】「ウェルビーイングな学校創りと先生の働き方」

本センター主任指導主事 眞崎 恒一郎

参加者一人一人が自己の「在り方」を見つめ直し、豊かな気付きを得ることができるよう、「NITSからの提案」にある「学びの相似形」について紹介しました。また、ウェルビーイングな働き方につながる視点として、「心の在り方」やワーク・ライフ・バランスの在り方や人生観について提案をしました。参加者からは「基調提案で様々な視点を知り、早く対話をしたくなった。」「対話や講演を聴きながら自分の学校での実践や子どもへの接し方について考えることができた。」等の感想が聞かれました。

#### 【研究協議】「ウェルビーイングな学校創りと先生の働き方」

3分散会(第1分散会:管理職等、第2分散会:ベテラン・中堅教諭等、第3分散会:若手・学生等)に分かれ、4人1組で対話を行いました。終始活発な話し合いが行われていました。「同じ立場の人の話を聞き、安心した。」「事前の基調提案を聴いていたので視点が明確になり、自分の在り方を見つめるよい機会となった。」「自分のウェルビーイングが子どものウェルビーイングにつながることに気付いた。」等の感想が聞かれ、各自の視座を高めるよい機会となりました。また、「学校創りのために自分の立場から何ができるだろうと考える視点が大切であると気付いた。」等の感想が聞かれ、視点を明確にした対話をとおして、各自が自己の在り方について新たな気付きを得ることができた様子が見られました。

### 【第2部】

#### 【講演】「思うは招く 夢があればなんでもできる」

植松電機代表取締役 植松 努

植松さんのお話は、終始具体的な事例をもとにした大変分かりやすい内容でした。子供たちが「どうせ無理」と思わずに、夢をもつ勇気と自信をもてるようにするために、「だったらこうしてみたら!」等、子供たちへの声かけや接し方について学ぶことができ、あっという間の90分間でした。

植松さんの言葉は明快で心に残るものばかりでした。いくつかのフレーズの中から主なものを紹介します。

- 「子供の夢や可能性が奪われない社会を!」
- 「子供の『すき』を大切に」
- 「『どうせ無理』をなくし、『だったらこうしてみたら!』の声かけを」
- 「失敗が怖いのではなく、評価が怖い」
- 「ちゃんとしなさい!は危険な言葉」
- 「人は足りないからこそ助け合える。自分をダメだと思わないで」

「『してもらう人』から『してあげる人』へ」  
「『違うはステキー!』は奇跡を起こす言葉」  
「知恵と経験と人脈にお金を使う」  
「諦めないために必要なことは人に夢をどんどん話すこと」  
「やったことのない人ではなくやったことのある人とつながる」

参加者からは、「子供たちに、好きなことを見つけ貫く大切さを伝えたいと思います。そして、好きを貫く子ども達の、頼れる味方でいたいと思いました。」「『だったらこうしてみれば』をすぐにでも使っていきたいと思います。」等の感想が聞かれ、企業経営者から、学校創りや働き方、子育てに活かせる気付きを得た意見が多く聞かれました。

#### 【パネルディスカッション】「ウェルビーイングな学校創りと先生の在り方」

【パネラー】大阪市立大空小学校初代校長 木村 泰子  
時事通信出版編集委員 坂本 建一郎  
植松電機代表取締役 植松 努  
本センター主任指導主事 眞崎 恒一郎

パネルディスカッションでは、植松努さんからの「人の自信と可能性が奪われない社会」、木村泰子さんからの「子供が育つ学校」という視点から様々なお話が交わされました。

今回は、第1部の【研究協議】で出された気付きや新たな疑問をまとめたホワイトボードを活用しました。会場の参加者とパネラーの一体感が生まれ、ウェルビーイングな自己の在り方等について視点を明確にして、主体的に聴く姿が見られました。以下、心に残るフレーズを紹介します。

「『無理して学校に行かなくてもいいよ』は問題のすり替え。誰もが安心できる学校に変える」  
「決まり(ルール)に黙って従うのではなく、意味を考えてアップデートしていく」  
「説得された自分と納得した自分ではその先の未来が違う」  
「過去は変えられないから、夢があるならどうやってそこにたどり着くかを考えることが大事」  
「出過ぎた杭は打たれない。自分の生き方次第で、自分の関わる人が変わってくる」  
「ヒエラルキー、同調圧力、前例踏襲を捨てる」  
「子供の話を聞き切る」

参加者からは、「教師にとって大事なものは、『自分を大切に、人も大切に』といった言葉を語るのではなく、それを体現しつつ子供に寄り添うことであると思う」、「最上位の目標を忘れず、手段と目的が逆にならないようにしていきたい」等の感想が聞かれました。

一日の学びをとおして、参加者は各自の立場から自己の在り方を見つめ直し、豊かな気付きを得ることができたようです。今回のセミナーが、今後のウェルビーイングな学校創りと働き方、生き方につながれば幸いです。最後に、参加者の方々から寄せられた感想の一部を紹介します。

○人の可能性を引き出すのは、やはり人だということを改めて感じました。人に寄り添いながら、見守ったり言葉をかけたりすることをこれからも続けていこうと思います。私たち教師の一言が、子どもたちの成長を促すことも、可能性を狭めてしまうこともあるということ認識していかなければなりません。また、自分自身が明るい気持ちで働くことで、学校がよい形で動いていくと思います。日々の生活に楽しみや目標を持ちながら人生を豊かに生きること、みんなが笑顔の学校を創ることができるのではないかと考えています。(県内教職員)

○午前中の基調提案は、考えを押し付けるわけではなく提言していただきとても勉強になりました。植松さんの講演はもちろんのこと、その後の木村泰子さんとのパネルディスカッションも様々な気付きがありました。茨城県の教育に対する姿勢の一部分を垣間見れました。またこのような機会があれば参加したいと思うセミナーでした。(県外教職員)

○基調提案ではウェルビーイングについてのわかりやすい提案があり、分科会では、自分の思いを話す場があり、パネルディスカッションでは、楽しさもあり、とにかく参加させていただきまして、充実した一日となりました。息子と参加させていただき、共通の話題ができたことも、ありがたかったです。ありがとうございました。(県内保護者)



第1部「基調提案」



第1部「研究協議」での対話の様子



第2部 植松 努さんの「講演」：「思いは招く 夢があれば何でもできる」



第2部「パネルディスカッション」：「ウェルビーイングな学校創りと先生の在り方」

